

第30回NIE全国大会（神戸大会）レポート

～時代を読み解き、いのちを守るNIE

1：はじめに～

古来より貿易活動によって、日本の経済に影響与えてきた海上交通の要所。一方で、現代における未曾有の都市型震災として、今を生きる私たちに多くの課題を投げかけてくれた防災教育の発信地でもある場所。いずれも人の生き方、考え方方に多くのメルクマールを残してくれたこの地で、第30回NIE全国大会神戸大会は実施された。

「時代を読み解き、いのちを守るNIE」を大会スローガンとして開催された今大会は、次回開催地である広島にも多くの学びを与えてくれたと感じている。

今回のレポートでは、神戸大会の成果ならびに次回大会に向けた課題、また今年度も実施された「ポスター発表」（報告者ならびに、呉市立荘山田小学校の高下先生が出品）について、その報告を記していく。



2：神戸大会の成果・課題点について

①神戸大会の成果



今大会における、第一の感想は「NIE博覧会」ともいいくべき、盛大且つ多様な学習実践が集積された印象を強く受けた。大阪万博にも引けを取らないほどの、新聞活用というパビリオンが用意され、来場者の五感を飽きさせない魅力が詰まっていたと思われる。

とりわけ、公開授業、実践発表の多さには目を見張るものがあった。実践活動を手掛けてきた兵庫県内の学校の地道な努力が垣間見られる=NIEの広がりが実感できる大会であった。

各学校の公開授業については、報告者は高校における実践報告を見学した。印象的だった学校は、甲南高等学校・中学校における「新聞トーク」とよばれる実践であった。

「生徒、教師が興味関心ある新聞記事を他者に紹介する」という新聞学習ではなく、「新聞を活用する意義、新聞の魅力、そして『もし新聞記事という情報ツールがなくなったら社会はどうなるのか』を新聞を学習した生徒（高校生）が後輩（中学生）に伝える」という学びの伝承は、新聞学習の新思考であった。新聞を「長く、継続的に、学びの日常にする」ためには、同じ立場で学ぶものから、新聞活用の意義を伝える手法は、どの学校でも汎用できる学習スタイルと思われる。是非参考にしたい所であった。



②神戸大会から広島大会へつなぐための課題点

盛大且つ多様な学習実践が展開された神戸大会であったが、今大会の特徴が逆に課題となつた点もいくつか見受けられた。以下に列挙する。

(1) 学習実践の情報過多

来場した私たちに、十分すぎるほどの実践を提供していただいた点は、感謝すべきところであった。ただ、2日間という日数の中で見学するには、量が多くなったと思われる。実際に来場者の行動をみると、「とりあえず写真で記録しておく」という光景が散見された。人と人の交流があつての、大会である。次回大会に向け、内容をコンパクトにする必要性は求められるだろう。

(2) 誰もが共有できるテーマで議論するためには

震災による惨禍から新聞を通して防災について考えるテーマ。また、昨今の政情や社会における情報の発信、そして受け取る側のニュースリテラシーを考えるテーマ。いずれも単独で十分議論できる内容である。だからこそ、前述した時間的な制約を考えると、不十分になったといわざるを得ない。広島も数々のテーマを抱える地域である。充実した大会にするためにも、誰もが十分に共有できるテーマを議論できる環境を作ることが重要になるだろう。

(3) 開催場所の検討

開催場所の吟味は、どの大会でも悩みの尽きないテーマである。今大会、とりわけ2日目の会場については、酷暑の中での移動が極めて大きな負担であったと思われる。今後も天候に左右されるケースは夏開催の場合は大いに起こり得る問題である。

3 :「ポスター発表～全国各地のNIE実践を紹介」について

①発表日時：8月1日（金）9時～14時

②発表場所：甲南大学岡本キャンパス（1号館ロビー）

③発表参加団体数：約70（重複する団体あり）

ポスター発表については、昨年度の京都大会に引き続き、学校関係のみならず、全国各地の学校、団体、新聞社がNIEの実践例を紹介した。京都大会（54団体）を上回る70の実践例が展示され、多くの参加者が特色あるポスターを閲覧していた。



④発表形式について

京都大会と異なり、任意でポスター前に担当者が滞在する形であった。よって、参加団体によってはポスター掲示のみのところもあった。地元、兵庫近隣の学校については、実際に活動を行った児童生徒、学生がポスター前で発表する所には多くの見学者が聞き入っていた。特に小中学生の発表は、「NIEで育つ児童生徒たちの声」ということもあり、参加者には好評であったと思われる。

次回大会でも、「子どもたちの生の体験」を聞き、知る機会が「公開授業」以外にも設けられると、来場者には良い情報共有になるかもしれない。

⑤会場内の様子について（課題点）

京都大会での盛況ぶりを受け、今回大会も実施されたポスター発表。前回大会の「ポスター設置者が常駐するため、他の会場へ足を運べない」といった問題点は、前述した通り解消されたと思われる。

一方で、京都大会以上に出品されたポスター数が広範囲に設置されたため、時間の制約がある中、ほとんどの来場者は「とりあえず、各ポスターを写真に撮っておく（＝帰ってから見る）」という行動で対応していたように見えた。現場でポスターを閲覧し発表者から説明を受ける、というポスターセッションの意義からは離れてしまったと思われる。

また発表者が常駐するポスターとそうでないポスターによって、来場者の足は発表者が常駐するポスターに集中し、混雑する場所と閑散とする場所に二分化された様子が見受けられた。

ポスター発表自体は、今後の大会においても NIE 実践の情報交換の場として必要不可欠な取り組みであると思われる…が、多くの人がじっくりと実践を閲覧し、掲載者から情報を受けるためにも、出品数の制限、精選は行う必要がある。

4：広島県から出品されたポスター発表について

今回大会での「ポスター発表」について、広島県からは2校、3例のポスターが掲示された。下記に、その概要を掲載する。



①呉市立荘山田小学校

「新聞記事を活用した平和を考える意義を学ぶ授業づくり」

本発表は、中国新聞社が連載する「ヒロシマ ドキュメント」を題材として、児童たちに平和を考える意義を考え、学習していく活動を紹介したものである。平和学習は、学校の教育活動として一定の教材や授業活動が用意され学ぶようになっているが、時代が流れ、日々私たちの日常が変化するのと同じく、平和に対する様々な視点も毎日目まぐるしく変わっている。常に変わる考え方と、変わることのないかつての戦争の記憶…それをつなげる題材として新聞記事の有効性をと紹介したものとなっていた。

②広島国際学院中学校・高等学校（報告者作成）

「五感学ぶ、果敢に学ぶ『百践鍊磨』の取り組み～『初めて』の学びを実践し、表出する探究活動」

本発表は、広島国際学院中学校で実践されている総合学習「百践鍊磨（ひゃくせんれんま）」の活動において、NIE の手法や神戸新聞社提供の新聞作成アプリ「ことまと」を導入している点を報告。生徒各自が体験した内容を「文章作成」・「新聞づくり」・「調査→分析→まとめ」を通して表出する取り組みについて事例を交えながら紹介している。

③広島国際学院中学校・高等学校（報告者作成）

「地域理解から未来を拓くNIE実践」

本発表は、広島県が抱える諸問題を考えるために、生徒たちに、「地元や周辺地域に目を向ける」所から学びを進める=地域理解の促進を軸としたNIE実践を紹介。教科書には記載されにくい、地元の実態を新聞記事の閲読、そして授業で学ぶ日本の諸地域と「比較」しながら、その違いや共通項を発見していく。一連の学習から、最終的な諸問題の解決へと繋げていく方法を生徒たちに模索させる活動を紹介している。

（報告者：広島国際学院中学校・高等学校 為重 慎一）